



各 位

平成 20 年 2 月 13 日  
富士フイルムホールディングス株式会社  
大正製薬株式会社  
富山化学工業株式会社

富士フイルム、大正製薬、および富山化学による  
戦略的資本・業務提携の基本合意について

富士フイルムホールディングス株式会社(社長:古森重隆、以下富士フイルム)、大正製薬株式会社(社長:上原明、以下大正製薬)、富山化学工業株式会社(社長:菅田益司、以下富山化学)の三社は、本日、富山化学の「医療用医薬品事業」の強化を中心とする戦略的資本・業務提携を行うことで基本合意に至りましたので、お知らせ致します。

本日の基本合意に基づき、まず富山化学が実施する第三者割当増資を富士フイルムおよび大正製薬が引き受け、次に、富士フイルムが富山化学の公開買付けを行います。更に富山化学による全部取得条項付株式の発行を通じた方法を経て、富士フイルムから大正製薬に一部の株式譲渡を行い、最終的に富士フイルムが 66%、大正製薬が 34%の富山化学の株式を保有する予定です。

今回の戦略的資本・業務提携は、「インフルエンザ治療薬」、「アルツハイマー病治療薬」などの有力なパイプラインを保有し、優れた創薬力を有する富山化学を、特定領域(感染症、抗炎症、中枢神経等)における世界基準の有力創薬企業として大きく飛躍させていくと共に、こうした富山化学の企業力の向上、および、三社の研究開発・販売面でのシナジー拡大による新たな価値創造を通じて、富士フイルムおよび大正製薬が、それぞれの企業価値の最大化を実現していくことをその狙いとしています。また、富山化学が現在開発中のインフルエンザ治療薬「T-705」の早期開発と安定供給体制の構築に向けた取り組みを加速させ、大規模な人的被害の拡大予想から、今や世界中でその発生が恐れられている新型インフルエンザの大流行(パンデミック)への対応という社会的要請に応えていきます。

#### 業務提携の骨子

- 富士フイルムは、総合ヘルスケアカンパニーとして「予防～診断～治療」の全領域をカバーしていくことを目指します。その中で、富山化学を新たに「治療」領域の中核企業として位置づけ、主に研究開発、生産、海外販売網構築などの分野でシナジーを追求しつつ富山化学の企業力強化も支援します。特に技術開発の分野では、富山化学のもつ技術基盤を資本注入により中期的に支援していくとともに、富士フイルムの乳化分散技術によるナノ粒子化など、独自のFTD(Formulation Targeting Delivery)技術をはじめとする多彩な技術を、富山化学のもつ高い創薬技術と組み合わせることで、新たな価値創造による新薬パイプラインの強化および治験期間の短縮化を目指します。

- ・ 大正製薬は平成14年に富山化学と資本・業務提携を結び、営業・マーケティングの合弁子会社である大正富山医薬品を設立し、営業の強化を図ると共に「ジェニナック(T-3811)」を共同開発し早期上市に繋げるなど研究開発部門でも業務提携を深めてまいりました。今回、資本関係を強化し、従来にも増して共同研究開発体制を強化することで新薬パイプラインの充実を図ってまいります。
- ・ また、富士フィルムと大正製薬は、セルフメディケーション分野を中心に、研究開発、販売面での両社の企業価値拡大に繋がる協業についての検討を進めていく予定です。

#### 【富士フィルムにとっての本戦略的提携の位置付け及びその狙い】

富士フィルムは、現在を「第二の創業期」と位置付け、中期経営計画「VISION75」の基本戦略に基づき、積極的な施策展開による大胆な事業構造の転換を進めております。この数年間で、写真関連事業の大規模な構造改革を断行し、同時に、重点事業への集中的な経営資源の投下を進めたことで、平成20年3月期は売上高2兆8500億円、営業利益2100億円と過去最高の達成を見込み、中期経営計画「VISION75」の最終年度である平成22年3月期には、売上高3兆1500億円、営業利益2500億円以上を目標値として掲げています。富士フィルムは、この中期経営計画の着実な実行を進める一方で、更にその先を見据えた中長期的な視点から、企業の永続的な成長を実現していくための戦略推進を検討しています。

医療用デジタル X 線画像診断システム、医用画像情報ネットワークシステム、内視鏡、血液の臨床検査用システムなどを中心に高い実績と豊富な知見を有する富士フィルムの「メディカル・ライフサイエンス事業」は、上記中期経営計画における重点事業の中でも、特に積極的に、設備投資・研究開発の強化や M&A の推進を進めている分野です。従来、「診断」の領域を中心に事業展開を進め、また各種サプリメントなどの機能性食品、機能性化粧品分野への進出により「予防」分野にも事業領域を広げている「メディカル・ライフサイエンス事業」を、更に「治療」の領域にまで拡大していくために、高い研究開発力を有し、且つ、技術的なシナジーが見込め、また、成長への潜在能力の高い戦略的パートナーとの連携を検討してきました。

今回、富士フィルムは、連結子会社の富士フィルム RI ファーマ株式会社(放射性医薬品事業)、富士フィルム ファインケミカルズ株式会社(医薬品原薬・中間体事業)に加え、研究開発型企业として高い実績をあげている富山化学と株式取得による戦略的提携を行い、医療用医薬品事業に本格参入することで、今後は「予防～診断～治療」という全領域をカバーする総合ヘルスケアカンパニーグループとして、新たな事業ドメインによる戦略展開を進めます。富士フィルムグループの「治療」領域の中核企業として、資金・人材・技術の側面から支援を進めて収益性の向上を図り、特定領域(感染症、抗炎症、中枢神経等)における世界基準の有力創薬企業として大きく飛躍させていきます。研究開発面においては、富山化学のもつ高い技術力に、富士フィルムの乳化分散技術によるナノ粒子化など、独自の FTD (Formulation Targeting Delivery) 技術をはじめとする多彩な技術を組み合わせ、新たな価値創造による新薬パイプラインの強化および治験期間の短縮化を目指します。生産面においては、富士フィルムファインケミカルズ株式会社の有効活用等を通じて、外注品の内製化を始めとする生産体制の効率化、災害リスク分散体制の構築、原材料共同購入などを検討していきます。販売面においては、富士フィルムグループの海外販売ネットワークやブランド力・知名度などを最大限に活用した、海外販売体制の構築等を進めていきます。

また、富士フィルムは、富山化学の企業力強化に向けた取り組みにおいて、大正製薬と強固な協力体制を構築していくと共に、OTC トップ企業としてセルフメディケーション分野での豊富な知見とノウハウを有する同社と、研究開発、販売分野を中心に、両社の企業価値の向上に繋がる協業の検討を進めていきます。

## 【大正製薬にとっての本戦略的提携の位置付け及びその狙い】

大正製薬は「健康と美を願う生活者が納得していただける、優れた医薬品・健康関連商品、情報及びサービスを、社会から支持される方法で創造・提供することにより、社会へ貢献する」ことを使命とし、この使命を全うすべく、国際的な競争の中でも着実に成長・発展し続けられるように、一層強固な経営基盤の構築を目指しております。平成 18 年には、創業 100 周年にあたる平成 24 年度を目標年度とする中期業績目標を策定し、新たな挑戦に向けてスタートいたしました。当該目標の下、主力のセルフメディケーション事業（一般用医薬品及び健康関連商品事業）の拡充と医薬事業（医療用医薬品及び同関連事業）の強化を図って盤石な経営基盤を構築し、更なる業容の拡大と企業価値の最大化に努めております。一方で、薬価改定、後発品の使用促進等の医療費適正化政策の浸透や外資系製薬会社の攻勢など医薬事業における事業環境は益々厳しさを増しています。そのような事業環境の中、今回、富山化学への資本比率を引き上げ、今まで以上に両社が行ってきた業務提携関係を強化し、厳しい環境を乗り越える所存であります。具体的には、大正富山医薬品株式会社設立以来、感染症、炎症・免疫に重点を置いた営業活動を実施してまいりましたが、昨年 10 月には大正製薬・富山化学の両社が共同開発を行った合成抗菌剤「ジェニナック」を上市することができ、現在、臨床の現場からも高い評価を頂いております。今後は、さらに共同研究開発体制を強化し、感染症、炎症・免疫の領域で日本のトップ企業となることを推進してまいります。

また、富士フイルムのもつ独自技術の導入による健康関連商品への応用等セルフメディケーション事業での協業を図ってまいります。

## 【富山化学にとっての本戦略的提携の意義およびその効果】

富山化学は、「ライブサイエンス<sup>\*</sup>で健康文化を創造する」という独自の企業理念を掲げ、自らを「健康文化創造企業」と位置付けて企業活動を推進しています。研究開発型企業として「新薬開発を通じて世界の医療の発展に貢献する」という経営目標を掲げ、その強みである研究開発力・生産技術力の強化によって、世界基準の新薬候補化合物を安定的に創出する体制の構築を進めてきています。優れた研究開発力を背景に、富山化学の得意とする感染症領域を始め、同規模の業界他社に比べ開発パイプラインに「インフルエンザ治療薬」「アルツハイマー病治療薬」「リウマチ治療薬」など有望な新薬候補を有しており、また世界的な企業への開発品の導出実績を多数有しております。

<sup>\*</sup>ライブサイエンス：生命科学(Life Science)を研究活動の基礎とするだけでなく、まず私たち自身が”生き生き”(Lively)と働き、人々に健康で”生き生き”した暮らしをお届けしたい、という考えから生まれた当社による造語。

富山化学にとっては、富士フイルムが写真事業を通じて長年蓄積してきた多様な独自技術(各種診断技術、解析技術、ナノ乳化分散技術、薄膜形成技術、精密合成技術、RI標識抗体技術、コラーゲン技術など)や人材、そしてグループ会社の生産技術や開発力という経営資源の提供を受けることで、富山化学が有する新薬パイプラインの強化及び治験期間の短縮化が期待され、また、富士フイルムの分散技術によるナノ粒子化など、富士フイルム独自のFTD(Formulation Targeting Delivery)技術の応用展開により、従来にない新たな医薬品を開発することが可能となります。

さらに、富士フイルム、大正製薬との戦略的な業務提携および資本提携により得られる資金支援、生産支援、海外販売網の構築支援を通じて、富山化学は収益性を大幅に向上させるとともに、特定疾患領域における有力製薬メーカーへの飛躍が期待できるものと考えております。

現時点で予定している今回の資本提携の概要は次のとおりです。富士フィルムによる富山化学の公開買付けの詳細については、本日、富士フィルムが公表した「富山化学工業株式会社株式等に対する公開買付けの開始に関するお知らせ」、富山化学が公表した「富士フィルムホールディングス株式会社による当社株券等に対する公開買付けに関する当社の賛同意見表明のお知らせ」「第三者割当により発行される株式の募集に関するお知らせ」をご参照ください。尚、本資本・業務提携による業績への影響が見込まれる時は、別途公表いたします。

[2008年2月末]

富山化学は、富士フィルムおよび大正製薬を割当先とした約300億円の第三者割当増資を実施し、両社はそれぞれ約198億円、約102億円を引き受けます。

[2008年2月19日～同年3月18日(予定)]

富士フィルムにより富山化学株式の公開買付け(1株あたり880円。但し、応募株式が73,190,000株に満たないときは、応募株式の全部買付けを行わないものとします。)を実施する予定です。(買付け期間予定:2008年2月19日～同年3月18日)尚、本日開催の富山化学の取締役会において、本公開買付けに関する賛同決議がなされています。

[2008年7月目途]

第三者割当増資を実施し、本公開買付けが成立した後、富士フィルムおよび大正製薬は、合わせて富山化学の発行済株式総数の3分の2以上を取得することになり、富山化学は臨時株主総会の決議により、その発行する全ての株式を全部取得条項付株式に変更した上で、その株式の取得と引き換えに富山化学は新たな株式を交付します。かかる交付に際して富山化学は、富士フィルムおよび大正製薬以外の富山化学の株主に対して交付する富山化学株式の数が1株に満たない端数となるよう決定し、富士フィルムおよび大正製薬以外の富山化学の株主には当該端数の合計数を売却することによって得られる金銭を交付する方法により、富山化学を富士フィルムおよび大正製薬の両社により100%の株式を所有する会社にするを予定しています。この場合の1株に満たない端数の株主に対し交付される金銭の額については、特段の事情がない限り本公開買付けの買付価格を基準として算定する予定です。

なお、本公開買付けの成立または富士フィルムおよび大正製薬の両社による富山化学株式の100%所有完了に伴い、証券取引所の上場廃止基準に従って、所定の手続きを経た上、富山化学株式は上場廃止となる可能性があります。第三者割当増資および本公開買付けを通じ、富士フィルムは富山化学を連結子会社化することとなります。最終的な議決権保有割合については、富士フィルム66%、大正製薬が34%となるよう富士フィルムより大正製薬に対し株式の一部を譲渡する予定です。また、富士フィルムと大正製薬は原則として当該譲渡の完了を効力発生条件とする富山化学に関する株主間契約を締結する予定です。

本件に関するお問い合わせ先

富士フィルムホールディングス株式会社 経営企画部 広報グループ	Tel 03-6271-2000
大正製薬株式会社 広報室	Tel 03-3985-1115
富山化学工業株式会社 経営企画部 広報グループ	Tel 03-5381-3818